

2025 年度 第 4 次豊田市教育行政計画 点検・評価報告書【概要版】

1 点検・評価の概要及び実施方法

豊田市教育大綱に掲げためざすべき教育の姿の実現にむけて、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民の皆様への説明責任を果たすため、豊田市教育委員会が所掌する事務を適切に執行しているかについて、教育委員会自らが毎年第 4 次豊田市教育行政計画に位置付けた事業の点検・評価を行います。また、特に重点的な事業については、外部の有識者や教育委員の意見・助言を参考にしながら、担当課へのヒアリングや現地視察を通して、毎年点検・評価を行い、その結果に関する報告書を公表しています※。

※「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条に規定

＜重点事業と評価の実施対象年度＞

12 事業を 3 か年に分けて実施。最終年度のみ 2022 年度～2024 年度の評価結果を踏まえ、課題や変化等のあった一部の事業について、外部有識者や教育委員の意見から事業を選定し、2 回目の点検・評価を実施。

(年度)					
重点施策名	重点事業名	2022	2023	2024	2025
自らの可能性を広げる力の育成	「主体的・対話的で深い学び」推進事業			○	
	ICT 活用・整備推進事業	○			○
	子どもの読書活動推進事業			○	
誰もが安心して自分らしく学べる場の確保	きめ細かな教育推進事業		○		
	いじめ・不登校対策事業			○	
	特別支援教育推進事業		○		
	外国人児童生徒等教育事業	○			○
	学校施設長寿命化改修事業				
郷土を愛し、生涯学び、活躍できる 機会の創出	WE LOVE とよた教育プログラム推進事業	○			○
	ものづくり教育プログラム事業		○		
家庭・学校・地域の共働の推進	コミュニティ・スクール／地域学校共働本部推進事業		○		
	地域との連携等による教職員多忙化解消推進事業			○	

※2025 年度は上記に加え、基本事業から「若者サポートステーション事業」を点検・評価対象事業とした。

2 2025 年度点検・評価の結果＜点検・評価実施委員による評価及び主な意見＞

重点施策名	重点事業名	評価
自らの可能性を広げる力の育成	ICT 活用・整備推進事業	A
■有識者・教育委員の意見 ・教員用デジタル教科書の整備により、資料提示や動画活用が進み、児童生徒の理解深化や授業時間の有効活用につながっている。また、子どもたちの ICT 活用の状況も、日常の学習の中でタブレットを操作して資料を提示し、プレゼンテーションや自分の考えを発表したりする姿が増え、浸透してきたように思う。操作の技術も上がり、うまく活用できている。一方で、日本の教育が ICT を活用した授業一辺倒になってしまうことに不安を覚えている。特に低学年の授業の中では、基礎的な学力を習得する過程で ICT 技術の習得よりも優先されるべき事柄があるように思う。 ■今回の点検・評価に関する意見への対応 ・豊田市学校教育の情報化プラン 2026～2030 を踏まえ、デジタルとアナログを併用しながら、目的や発達段階に応じて効果的な ICT の活用を推進していく。		



重点施策名	重点事業名	評価
誰もが安心して自分らしく学べる場の確保	外国人児童生徒等教育事業	B
■有識者・教育委員の意見 ・外国人児童生徒等サポートセンターの活動内容に、外国につながるのある生徒の進路相談会や保護者電話相談窓口の開設が加わり、以前からの課題へ対策が進められたことは大いに評価できる。 ・行政による様々な支援制度が整備されている一方で、家庭の事情や保護者の理解等により支援を利用する家庭と利用しない家庭があり、結果として児童生徒の学習機会に差が生じる可能性があることを踏まえた評価・改善の取り組みが求められる。 ・「ことばの教室」への長距離通学は課題であり、通学支援制度の導入やオンライン対応の教育プログラムの導入・開発、交通機関の利用しやすい施設の増加など、通えない児童生徒を少なくするための対策を速やかに検討する必要がある。 ■今回の点検・評価に関する意見への対応 ・家庭の事情や保護者の理解により学習機会に差が生じる課題については、児童生徒の様子や事情を踏まえ、愛知教育大学の学生ボランティアも生かしながら学校への支援体制を考えていく。 ・ことばの教室へ通えない児童・生徒増加のため、引き続き在籍校へ日本語指導員を配置し、ことばの教室と同様の初期指導を行えるようにしていく。		

重点施策名	重点事業名	評価
郷土を愛し、生涯学び、活躍できる機会の創出	WE LOVE とよた教育プログラム推進事業	A
■有識者・教育委員の意見 ・豊田市は潜在的にとっても素晴らしい教育資源を持っているため、子どもたちの教育に生かしていくことはとても評価できる。また、プログラム数が多いことにも魅力を感じる。一方で、現状ではプログラム数が一つの指標として捉えられているが、事業の成果を適切に把握するためには、活用校数や実施回数、学習効果などを含めた評価指標の整理が必要である。 ■今回の点検・評価に関する意見への対応 ・学校への活用状況調査を実施し、活用されているプログラム、理由等を把握・分析していく。また、関係課や WE LOVE とよた教育プログラム推進委員会で既存のプログラムについて検討し、より活用しやすいものに改善・整理していく。		

重点施策名	重点事業名	評価
地域による次世代人材の育成の促進	若者サポートステーション事業	B
■有識者・教育委員の意見 ・若者への相談窓口は多いに越したことはないので存在自体が素晴らしいし、頼もしい。立地面においても駅前により利便性が高い。不安いっぱいの子どもたちに実習した上で就業支援をしてくれるのも非常に心強い。一方で、現在の支援は困難が顕在化した後の相談対応が中心となっており、不登校や社会的孤立が深刻化する前の段階で支援につなげるため、学校との連携や早期発見・早期支援の体制強化が求められる。 ・本事業は民間団体への業務委託により専門的なノウハウを活用できるメリットがある一方で、契約更新の状況によっては事業の継続性が不安定になる可能性がある。支援の継続性を確保する観点から、行政と委託団体の役割分担やノウハウの蓄積について検討が必要である。 ■今回の点検・評価に関する意見への対応 ・困難を感じた際に相談体制が確保されていると認知されること自体が孤立を防ぎ、早期発見、早期対応に繋がるものと考えている。義務教育期間中からの周知を進めているところであるが、今後とも、情報発信および周知促進に努めていく。 ・委託業者と定例会を開催し、困難事例の相談等、ノウハウの蓄積、多機関との連携を促進している。		

【評価区分】
A：今後も現状（計画・予定）通り事業を進めることが妥当。もしくは、予定通り完了
B：事業内容や事業手法に改善を行う余地があり。より一層の効率化やコスト削減、成果向上に努める必要がある
C：事業内容や事業手法の大幅な見直しが必要。取組内容の一部廃止や実施主体の変更など、事業内容の大幅な見直しに努める必要がある
D：事業の廃止や休止、事業規模の大幅縮減など、事業のあり方について抜本的に検討する必要がある